

船
橋
市

農委だより

第83号 平成24年1月1日発行

(年2回発行)

発行 船橋市農業委員会

編集 農委だより編集委員会

〒273-8501 船橋市湊町2丁目10番25号

TEL 047(436)2742~5

URL <http://www.city.funabashi.chiba.jp> (船橋市役所)

メールアドレス nogyo@city.funabashi.chiba.jp



市内在住の 高尾 泉さん(97歳) 作

新春のご挨拶

船橋市農業委員会

会長 田中行雄



新たな年を迎え、皆様方にご挨拶申し上げます。

昨年未曾有の大震災から10カ月が経とうとしています。復旧・復興への道のりは依然として厳しい。そのような中で、幾多の長期にわたる困難に立ち向かい、農地を再生し、農業を再開し、作物を实らせる被災地の方々の農業・農村への想いに心を打たれます。

その一方、昨年11月に野田首相はTPP交渉参加へ向けた関係国協議に入ることを表明しました。震災後一旦は判断が先送りされたTPP参加問題が唐突に持ち上がり、議論が深まらないまま今回の表明となった感があり、生産の現場は不安に覆われています。

22年3月に閣議決定された新たな「食料・農業・農村基本計画」は「国民全体で農業・農村を支える社会の創造」を目指しています。しかし、同計画で掲げた食料自給率目標50%の達成、食料安全保障の確

立は、TPPと両立することは非常に困難です。あらゆる品目の関税撤廃が求められる中、どのよう

に日本の農業・農村を守っていくのでしょうか。そして、その中で船橋市の農業はどうなっていくのか。私たち農業委員としても、動向を注視し、各関係機関との連携を密にし、適切に対応するよう努めてまいります。

また、地域農業の振興のために、新鮮な食料の安定的供給や自然環境の保全等、都市農業の役割や重要性を訴え、「農」のあるまちづくりの推進に引き続き努力して参ります。

今後とも、皆様方の更なるご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝を心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます 農業委員一同

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|--------|------|-------|--------|-------|-------|--------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 田中 | 岡庭 | 田久保 | 三橋 | 金子 | 川野 | 飯島 | 橋本 | 仲村 | 興松 | 玉井 | 斉藤 | 長嶋 | 神山 | 岩井 | 濱田 | 濱田 | 大沢 | 土橋 | 小池 | 石井 | 奈良 | 石神 | 金子 | 木村 | 齋藤 | | |
| 行雄 | 行美 | 行晴 | 行誠 | 行雄 | 行豊 | 行雄 | 行俊 | 行弘 | 行勲 | 行實 | 行誠 | 行雄 | 行樹 | 行子 | 行一郎 | 行実 | 行久 | 行之 | 行正 | 行俊 | 行五十八 | 行治 | 行昭 | 行嘉 | 行正 | 行教 | |
| (印内) | (三咲) | (西船) | (東町) | (前貝塚町) | (西船) | (金堀町) | (飯山満町) | (高根町) | (中野木) | (小野田町) | (海神) | (葉山台) | (丸山) |

(議席順)

選挙人名簿登録申請書は1月10日(火)までに提出を

農業委員会委員選挙人名簿は、各農家からの申請により、毎年1月1日現在で作成します。選挙人名簿に登録できる人は、次の要件を満たしている人です。

- ① 船橋市内に住所のある人
- ② 平成24年3月31日現在で満20歳以上の入
- ③ 10アール以上の農地を耕作している農業経営主、およびその人と同居の親族・配偶者で年間60日以上農業に従事している人

※選挙人名簿に登録されないことと農業委員の選挙権及び被選挙権は認められません。右の要件を満たしている方で、申請書が届いていない場合はご連絡下さい。

なお、8月に実施された「所有地及び耕作地に関する申告書」が未提出の方は、併せて提出して下さい。

提出・問合せは、

農業委員会事務局

047(436)2745



平成24年度建議について

11月1日、田中農業委員会会長から藤代市長へ「平成24年度船橋市農業施策に関する建議書」を提出いたしました。
 建議書は農業者の要望が反映されるよう、農業委員や各農業団体、農業モニター制度等を通じて得られた意見を取りまとめて作成され、総会で決定されたものです。

一 東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故被害への対応

- ①生産物の放射性物質検査を市独自に実施し、検査結果をホームページ等に掲載する等、市内農産物の安全性を公表する措置を講じること。
- ②出荷制限指示等による損害のみならず、風評による価格下落等全ての農産物を対象とした万全の補償の早期実施を国に要望すること。
- ③土壌に含まれる放射性物質の農作物への影響及び対処法等に関し情報収集し、生産者に周知すること。

二 「農」のあるまちづくり

農業者と市民との相互理解を深めるために「農」のあるまちづくりを推進すること。

三 農業経営基盤の強化の促進に関する事項

- ①安全・安心で品質の高い船橋産農産物のブランド化事業を推進し、特産品の創設に努力している経営体の育成や農商工連携に向けた支援策を実施すること。
- ②原油・肥料・飼料等のコスト上昇に対する負担軽減措置等について検討すること。TTP等国の施策が地域産業に与える影響について見極

め、生産コストに見合った価格補償制度を実施するよう関係機関に働きかけること。

- ③耕作放棄地解消対策として、一斉耕起等の実施、土地再生のための大型機械の導入、事業に協力するグループ等の支援・育成を図ること。
- ④生産緑地を農業経営基盤強化促進事業の対象地区とするよう関係機関へ働きかけること。また、積極的に追加指定を行うよう指定基準を見直すこと。
- ⑤農地転用許可後に用途変更するケースを防ぐため関係各課に協力願いたい。

四 農業の振興に関する事項

- ①担い手育成・確保及び支援措置の周知、技術の確立・農業施設等への助成、農業政策・諸税制等に関する説明会の開催等の施策を講じること。

②新規就農者の確保、労働力の減少を補完するための農業研修講座の継続、受講修了者による援農システムの構築を図ること。

③農業者同士の情報交換の場の設置等について検討すること。

五 農業者と市民の交流

- ①農業体験の機会を広く提供する施

策の実施、特に子どもたちの農業への理解促進に寄与する学童農園推進事業を積極的に推進すること。
 ②学校給食に船橋産農産物を使用するため、学校と農家・農協が直接取引できない現状について、食材納入方法を検討すること。



- ③農作物直売所・朝市等の開設・運営を推進すること。また、船橋産の農産物取扱い店舗及び生産者の表示をする等、地産地消の拡大を図ること。

④農作業について地域住民の理解を得られるよう、農業の必要性・重要性について啓発・広報等を実施すること。宅地開発事業者に対し、農業が継続できる環境を維持し、住宅購入者へ十分な説明を行うよう指導すること。

六 農業施策の充実

- ①作物残渣・剪定枝・家畜排泄物等を堆肥化し地域に還元する事業を検討すること。

- ②廃棄物処理法施行令では「農業等を営むためにやむを得ないもの」は焼却禁止の例外であるが、市では環境保全条例により一律に屋外燃焼行為を禁止している。この見解について再考願いたい。
- ③野生鳥獣による農産物の被害に対し、実態調査・捕獲等の対策を検討すること。

- ④農産物の盗難、ビニールハウスの毀損、ごみの投棄、ペット等の排泄物の放置・放し飼いの被害への対策として、啓発、広報等を実施すること。

- ⑤農作物に対する人工光の影響を考慮した照明器具等の設置方法・点灯時間について、事業者及び関係施設等に指導すること。

- ⑥船橋産農産物への安全性及び信頼の確保のため、迅速かつ安価に結果の出せる残留農薬分析施設の設置を検討すること。

七 税制対策

- ①農地の固定資産税の課税にあたっては、農業者の負担にならないよう課税の適正化に努力されたい。
- ②以下の項目につき関係機関に働きかけられたい。

- ・相続税・贈与税の納税猶予の特例の堅持。
- ・農業経営上必要な施設を納税猶予の特例の対象とすること。

八 農業委員会の必置規制の堅持

農業委員会の必置規制を堅持し、農地法等改正に伴い増大している農業委員会の役割・業務に対応するため、体制の強化を図ること。

**第44回農水産祭
「都市農業PR」
開催**

昨年11月5日(土)に例年通りJ.R船橋駅北口おまつり広場に於いて「都市農業PR」(農産物即売会)が催されました。昨年は東日本大震災・原発事故による放射能汚染と大変な苦難の年でした。幸い千葉県産農産物への影響は無く安心しました。即売会用農産物の集荷も農業委員、市内農家や農業モニターの皆様のご協力を頂き充分に取り揃えることが出来ました。

当日は薄曇りながら好天となり会場準備や農産物の搬入も順調に運びました。年々常連客が増え一昨年同期整理券対応としました。

開会挨拶で船橋市長をはじめ農業委員会会長と農政小委員長から「安全農産物・都市近郊船橋産のおいしい野菜・お出でいただいた皆様からのご近所へPRを」等と強調され



ておりました。

会場入口は既にお客様が長蛇の列、3か所に「コ」の字にテントが張られ、鉢植花・果樹・餅などの売り場、野菜などの売り場、農業や野菜に関するアンケートコーナー(クジ引有)が順に設置され、11時販売開始と同時に続々と売り場に向かわれました。入場係担当の方に聞いたところ開始20分で365名来場されたそうです。各コーナー共係の方がお客様の問い掛けや買い求めに精一杯の対応をしておりました。そこには作り手と消費者の方々が直に触れ合える喜びの笑顔が満開でした。

一段落つくくと会場のあちこちで食材談義やら農家の苦労話の輪、スーパードでは滅多に見掛けないズイキ(芋茎)は調理方法等をハンドマイクで説明、はては売りつくしに懸命な係の呼び込み、クジ引コーナーの歓声等賑わいが続きました。終盤は通行人の近くに売り場を移し売り切りに懸命、最後は当日用意した商品全てが完売、3時間弱にて即売会の終了となりました。

大都市船橋の都市農業の現状をより多くの人に理解してもらい応援してもらおう為にも、この伝統ある「都市農業PR」イベントは今後も継続していく事が重要であると肌で感じる事ができました。このイベントに関わっていただいた全ての皆様、お疲れ様でした。ご来場いただいた全てのお客様、ありがとうございます。今年も宜しくお願い致します。



農水産祭アンケート結果

23年10月、行田に農産物直売所がオープンしたことについて

- ・知っている 179名(56・8%)
- ・知らない 134名(42・5%)

直売所の情報がインターネットで紹介されていることについて

- ・知っている 112名(35・6%)
- ・利用度は
 - ・週1回程度 33名
 - ・月2回程度 53名
 - ・その他 20名

船橋の農業の発展のために力を入れるべきこと (2つまで選択)

- ・地場産農作物の直売所の設置 176名(55・9%)
- ・学校給食への使用 156名(49・5%)

- ・船橋の農業に関する情報提供 97名(30・8%)

- ・子供を対象とした農業体験・食育 79名(25・1%)
- ・都市住民と農業者との交流の場 60名(19・0%)
- ・船橋特産農畜産物の研究・開発 33名(10・5%)
- ・その他 3名(1・0%)

※回答者数315名
ご協力ありがとうございました。



**相続税・贈与税の
納税猶予を受けている方へ**

納税猶予制度の適用農地が耕作放棄されていると、納税猶予が打ち切りとなります。

打ち切られた場合、猶予を受けている税額に加え申告期限からの利子税を納付しなければなりません。

農地の適切な管理をお願いいたします。

農業委員紹介

農業委員として



齋藤教子
(坪井町)

私は、公選女性農業委員として千葉県で第一号、今から15年前のことです。農民の半分は女性なのに、私が出る前まで千葉県に女性農業委員が一人もいなかったことに驚きました。

この間いろいろな活動をしてくる中で、千葉県の女性農業委員が昨年は19人、今年は37人になりました。10年前に千葉県女性農業委員の会を作り、学習会を積み重ねてきました。農地法を学び、農業者の代弁者として、農業者の立場に立った農業委員を目指してきました。

今こそTPPの中身を明らかにさせ、参加を阻止して人間の食物を作っている農民が大切にされる世の中に。農業で生活でき、後継者が安心し、喜んで農業を継ぐことができる世の中にしたいですね。引き続き精一杯頑張りますので、お気軽にお声をおかけいただければ幸いです。

農業委員になって



木村正伸
(神保町)

私は、大神保・金掘・神保・八木ヶ谷地区の方の推薦を受け今期より農業委員となりました。何も分からない中、早々講習会・総会審議・審査会・農地調査等戸惑いと勉強の連続ですが、先輩委員や事務局の皆様のおかげで何とか職務をこなしている状況です。

農業を取り巻く環境はTPPをはじめ年々厳しさが増しております。今後は委員や事務局の皆様方に引き続きご指導頂き農業委員として地域の方々のお役に立つよう努力してまいりますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。

二期目を迎え



金子嘉昭
(東船橋)

私は、宮本・東船橋地区の推薦をいただき農業委員二期目を迎えます。

た。

毎月の総会に年数回の審査班、各研修、年二回発行の農委だよりの編集作業等々、振り返れば緊張の連続で、あっという間の三年間でした。

そして今期は、農委だよりの編集委員長と新たに農政小委員に任命されました。口べたで文章を書くことを苦手とする私にとって、果たして務まるのかと正直不安なところでした。

昨年は、未曾有の東日本大震災によって、米の作付けが遅れ、収穫期前に放射能汚染で廃棄になるかもしれないと大変心配をいたしました。辛いにも、県から安全宣言が出され平年通り出荷することができ安心いたしました。

しかし、被災地では農業も含め震災前の状態に戻るには、まだまだ時間が必要です。一日も早い復興を願うばかりです。

終わりに、まだまだ自分は農業委員であると胸を張って言える自信はありません。この三年間更に精進し、少しでも地域の皆様のお役に立てるよう頑張ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

農地や農業経営等についての相談、意見など、お気軽にお近くの農業委員や事務局までどうぞ！

ぜひご参加ください！



千葉県農山漁村いきいきフォーラム

東日本大震災を乗り越える(新しい一歩を踏み出すために)

2月1日(水) 10時~15時 千葉県文化会館 小ホール

午前 講演 首都大学東京名誉教授 片田元己氏「原発事故とその影響 ~本当のことが知りたい~」

午後 事例発表 「農業に果たした原発事故の影響」

申込締切 平成24年1月18日

参加費 無料 ※昼食は実費(女性農業起業家の手作り弁当を販売いたします(700円・要予約))

お申込み・お問合せ 千葉県農山漁村女性団体ネットワーク事務局(千葉県農林水産部担い手支援課)

TEL 043 (223) 2820 FAX 043 (201) 2615

農業委員・農業モニター
合同視察 開催される

11月22日、農業委員11名と農業モニター12名による合同視察が行われました。

風もなく穏やかな日で、大変気持ちの良い視察日和となりました。

イオンアグリ創造株式会社

最初の視察地は、茨城県牛久市にあるイオンアグリ創造(株)牛久農場でした。

この農場は、2007年に耕作放棄農地対策事業として牛久市の要請を受け、農地の再生費用の2分の1の助成を受けて始められました。5haからスタートしたこの農地の面積は、その後近隣の農地等を借り受けるなどし、2010年には7ha、2011年には10.7ha、来年度においてはさらに約1ha増える予定とのことでした。

この農場では、DNPの「農産物生産管理支援システム」(※)を導入し、JGAP(※)を取得しています。10haの中に1haに及ぶパイプハウス群とキャベツ・白菜畑があり、この農場を社員2名、パート20名で運営しているとのことでした。



イオンアグリ創造(株) 牛久農場

シャトーカミヤ

次の視察地はワイン醸造施設シャ

パイプハウスはストロングタイプの2連棟構成のもので、天窓・サイド換気に至るまで自動化されており、無線ネットワークによって事務所と結ばれているようでした。このハウスでは、小松菜が年6作栽培されているとのことでした。

作業所の中では、出庫を待つキャベツがコンテナ詰めされ積み上げられていました。

この農場では、小松菜のほかに春作としてキャベツを、秋作としてキャベツ・白菜を栽培しています。

農場での薬剤散布についても、同支援システムを使って農薬の選定・農薬履歴管理等を行っています。

説明によると、まだ3年目でもあり、供給不安定などにより売上高は3000万円程度で、年商1億円というハードルはなかなか厳しい、とのことでした。

※農産物生産管理支援システム

：DNP(大日本印刷)が作成した「栽培記帳システム」「原価管理システム」「Webカメラによる監視システム」「農場サーバーシステム」によって構成されている。手書きの文字や図をリアルタイムでデジタルデータとして取り込むことが可能。また、登録農薬・適用農薬・成分による上限回数・毒性などの情報を自動的にチェックできる。

※JGAP(ジェイギャップ)

：NPO法人日本GAP協会が認定する生産工程管理に基づく品質保証の基準及びその認証制度。

トーカーミヤでした。建物に使用されているレンガはこの地域の土を焼いて作ったもので、レンガとしては柔らかく、決して質の良いものとは言えないとのことでした。ですが、その柔らかさが揺れへの強さとなり、岡田時太郎(東京駅の設計をした辰野金吾の弟子)による巧みな設計と相まって、レンガ作りの建物としては強靱なものとなっているとのことでした。昨年3月11日の東日本大震災において大きく被害を受け、残念ながら内部の見学はできませんでしたが、震度6弱の揺れに見舞われながらも、窓ガラスは1枚も割れることはな



シャトーカミヤ

かったとのことでした。

創立者である神谷傳兵衛は、ワインの本場フランス・ボルドー地方のワイン醸造方法を取り入れ、120haのブドウ園を中心に、レンガ造りの牛久醸造所を作りました。(明治34年着手、36年完成。平成20年に重要文化財に指定)ワイン作りの歴史はこれよりも昔から甲府等で行われていたものの、神谷傳兵衛のようにブドウ園をもち、自前のブドウからワインを作り販売するといった、栽培から販売までを一貫して行うことから、シャトーの称号を許されたとのことでした。今でいうところの6次産業と言えるかもしれません。

農産物直売所 みずほの村市場

最後の視察地となったのは、農産物直売所みずほの村市場でした。

「旬の野菜や果物、自然食品、四季折々の鉢花など、丹精込めて作られた商品を提供する」をコンセプトとして運営しているとのことでした。

「みずほの村市場」ではJGAPの認証を受けた88名のみずほ農業者会から供給された野菜と、他産地産の野菜や加工食品等で構成されていました。

農産物直売所というものを過去に何ヶ所か視察しましたが、ここは今まで視察した所とは大きく異なっていました。

店舗はそれほど大きくはないのですが手作り感があり、必要に迫られて拡張したのかな?と思われるような古材等を多用したつくりとなっていました。また、並んでいる野菜等も決して安いものではありませんが、ちよっと手を伸ばしたくなるような食材が並んでいました。運営者による説明を聞くことが出来なかったことが残念でした。

今回の視察は今までにないほどの天候に恵まれ、移動中の車内においてもさまざまな情報交換がなされて、有意義な1日となりました。



農産物直売所 みずほの村市場

農業委員会の活動 ～農委だより編集委員会～

農業委員会の中には、「農政小委員会」を始め、「耕作放棄地対策検討委員会」、「学童農園支援委員会」、「農委だより編集委員会」と4つの委員会があります。各委員は4つの内の一つ以上に所属し、それぞれの活動をしています。

各委員会の発足経緯、活動内容を簡単に説明します。

農政小委員会は、集団農地の区画整理にかかる問題により、頻繁に会議を持つ必要があったことから昭和41年8月に設置されました。現在は、市への建議書案の作成、県への建議の要望書案の作成、活動計画案作成等を行っています。

耕作放棄地対策検討委員会は、地域農業を活性化し耕作放棄地解消の目標（耕作放棄地解消モデル事業）を達成するため平成21年8月に設置されました。モデル事業用地を確保するための土地所有者へ協力要請や、農地利用状況調査および指導等を行っています。

学童農園支援委員会は、子供たちが農業体験を通じて食料や農業の大切さを学び、豊かな心を育むことを目的とし、前身の学童農園整備検討委員会を経て平成23年9月に設置されました。学童農園の候補地の選定および土地所有者への協力要請、支援チームへ派遣する委員の選出等を行っています。

農委だより編集委員会は、市内農業者に対し農業に関する情報を提供するために農委だよりを発行しています。平成15年4月に設置され、第66号より委員自らが取材編集をしています。

今回は、農委だより編集委員会（以下、編集委員会とする）について紹介します。

編集委員会は、平成15年4月に設置されてから、現在、第4期目の編集委員が、年2回発行の農委だよりの編集作業にあたっています。5人の選挙委員で構成され、各行事や事業活動の様子を記事にするため、編集会議を開き、それぞれの編集委員が分担して取材し、紙面の作成をしています。毎年の行事は、春の農業モニター・消費生活モニター・農業委員の交流会に始まり、農業委員研修視察、秋の農水産祭、農業委員・農業モニター合同視察等があります。事業活動は、農地パトロール、耕作放棄地解消モデル事業、学童農園等々です。

私達編集委員は、農委だよりを通して、農業委員の活動を伝えていくと共に、市内農家の皆様の少しでもお役に立てる情報を発信していきたいと思っています。

農委だより編集委員会

- 委員長 金子 嘉昭
- 副委員長 小池 正一
- 委員 齋藤 教子
- 木村 正伸
- 仲村 弘

今号より担当いたします。よろしくお願いたします。

農地情報

農地の売渡・貸付希望についてお知らせいたします。それぞれの土地についての詳細につきましては、農業委員会事務局までお問い合わせください。ここに掲載した以外にも情報がありますので、農地を買いたい・借りたい希望のある方はお問い合わせください。

※農地として利用する場に限りです。
※農地の買受け・借受けには要件があります。

貸したい		
町名	地目	面積
上山町	畑	10a
東町	田	24a
二和西	畑	16a
古和釜町	畑	18a

売りたい		
町名	地目	面積
車方町	畑	26a
車方町	畑	13a
豊富町	畑	20a
鈴身町	畑	17a
古和釜町	畑	23a

売買・貸借の希望は随時受け付けておりますので、ご相談ください。

お問合せ 農業委員会事務局 047(436)2745

農業者年金でゆとりある老後設計を

- ①国民年金第1号被保険者で、年間60日以上農業に従事する60歳未満の人は誰でも加入できます。
- ②自分の年金原資を自分で積み立てる、積立方式の確定拠出型年金です。加入者や受給者の数に左右されません。
- ③保険料は月額2万円から6万7,000円までの間で1,000円単位で自由に選択でき、また、いつでも見直すことができます。
- ④80歳までの保証が付いた終身年金です。
- ⑤保険料は全額が社会保険料控除の対象になり、年金は公的年金等控除の対象となります。
- ⑥認定農業者や青色申告者等に対しては、国から保険料の補助（2割～5割）があります。

※詳しくはJAまたは農業委員会事務局まで

船橋市からのお知らせ

船橋市農業振興地域整備計画の見直しを行います

優良な農地の確保・保全をするとともに、農業振興のための各種施策計画を定めることを目的とした「船橋市農業振興地域整備計画」の見直しを実施します。

平成24年3月12日(月)から計画策定までの期間(概ね1年程度を予定)は、下記の地域の農振除外及び農地転用申請の受付を停止いたします。このため、平成24年3月9日(金)が受付締め切りとなりますので、申請を考えている方はご注意ください。

なお、見直しの内容や個別の相談については、船橋市役所農水産課(047-436-2493)までお問い合わせください。

記

農業振興地域

小室町、小野田町、車方町、鈴身町、豊富町、大神保町、神保町、八木が谷町、八木が谷2～5丁目、高野台4・5丁目、みやぎ台1・2・4丁目、楠が山町、金堀町、大穴町、大穴南2～5丁目、大穴北2～8丁目、古和釜町、坪井町

問合せ先

農業振興地域については 船橋市経済部農水産課 農政水産係
TEL 047-436-2493
農地転用については 船橋市農業委員会事務局 農地班
TEL 047-436-2742



● 編集後記 ●

食料問題を語るのに農業を切り離しては語れない。食とは命であり、食べなければ生きていけない。食べ物の基本は農業であり漁業である。こんな事を言ってもなかなか通用しない。

この間、電車の中で若い女の子の会話が聞こえて来た。「私、携帯が無いと生きていけない」「私もよお。」

何言ってるんだ、携帯が食えるか、飯を食わなきゃ生きて行けないんだ、死んでしまうぞ、と言ってるやうに聞こえた。(言っている意味が違うのはわかってはいるけど)

終戦直後生まれ迄の人は、戦後食料が無く、いつも腹をすかし、口に入る物は何でも食べ、食料調達に躍りになり、食の大切さを体が知っていて、農業や漁業に多少なりとも関心を示す。しかし、その後の世代になるとスーパーマーケットには何でもあり、欲しいものはいつでも何でも手に入るし、品物が無い事がおかしくないか。

ある小学校の父兄と食について話をしていた時、「野菜って一年中採れるんですよ」と言われた。野菜は季節によって育つものと育たないものがある。一年中何でもある。スーパーには一年中何でもお客さんから同じ様なことを言われることが多々あるとの事だ。

農業生産技術の向上により季節感が無くなったのも事実だが、食料は自然のサイクルの中で育まれるもので、人間の要求する時にできるものではないか。思ってももう事は無理なのだろうか。

最近、ゲリラ豪雨や台風並みの風が吹き、夏には熱波の様な気温になるのが当たり前。気象条件になり、食料生産には厳しい条件になってし

まったが消費者はどう思っているのだろうか。

先日、スーパーで野菜を並べていた時、お客さんから「野菜は高いし品物は少ない。大根を買おうとしたら、半分は切っただけ、高くはないか、どうしてですか。」と聞かれた。夏の暑さ、大雨や台風で野菜が大打撃を受けた事を話したら、「そちらも損をしているのか」と言っていた。

生産者サイドから見れば、今までの価格が安過ぎて、離農や規模縮小に追い込まれているのに、自然災害であつても価格が高くなれば、テレビニュースで野菜が高い、小麦が高いとトピックスが並みに報道される。安い時にはニュース性が無いのかあまり報道されない。関心があるのは価格と農薬ばかりか。

私もサラリーマンの経験があり、その時の収入と今の農家の収入を比較すると、一人当たりでは農家の方が格段と低い。その上で農業生産をしていることを理解されず、尚且つ食料の安全性や安定供給、自給率アップを求められ、法も改正された。その中で農地集約で規模拡大しコストを下げ、儲かる農業にしようと言われている。しかし、ある程度はコストダウンできるだろうが、販売価格を上げないで儲かる農業、魅力ある農業が実現するのだろうか。消費者は、食料安全保障とは、と考えているのだろうか。

疑問ばかりで、ほとんど何をしたいのかわからないが、テレビのドキュメンタリー番組でブラジルの超大農園主が自家用ジェット機の中で「人間が食べる事を止めない限りこの商売は無くなる」と。また、シンガポールに行った時、蘭栽培農家の方が、「もし儲からなくなったら蘭農家を直ぐやめて仕事を替えます」と。

私には、この2つの事が強く印象に残っている。